

担任・ＳＣなどと連携して行った、児童の実態に合わせた スモールステップの指導について

不登校児童の状況

対象生徒は、小学校４年生であり、３年生のときに友達の言動が気になり、うまく関わるができなかった。また、勝敗へのこだわりが強く、負けた時に怒りを抑えることができずトラブルが増えた。そのような状況の中で、３年生の２学期頃から登校することができなくなった。

具体的な取組

○校内別室の活用

校内別室を活用し、学校内に児童の教室以外の居場所を確保した。校内別室内では、登校できることを最優先に考えて、児童の実態に応じたスモールステップの指導を行った。

○気持ちを受け止める

別室での支援が始まったときは、すぐろくゲームを一緒に行うなど、支援員との関係づくりの時間を十分に確保した。また、ＳＣとも連携して児童の気持ちを丁寧に受け止めた。



○担任との連携

担任は別室で課題を一緒に行ったり、教室で早朝個別授業を行ったりして、児童との関係をもつようにした。その中で児童のよさを認める発言を繰り返し、自信とやる気を育んだ。

○コミュニケーションスキルの育成

当該児童が、フワフワ言葉とチクチク言葉について、実際の場面を想起させながら考える時間を設けた。また、当該児童に、アンガーマネジメントについて、具体的な対応の仕方などを説明しながら指導を行った。

成果

当該児童は、校内別室へ登校する中で、人と関わろうとする意欲が向上した。９月から少しずつ学級で参加できるようになり、１１月にはほとんどの時間を教室で過ごせるようになった。

課題

気持ちを落ち着かせる大切さを、理由を説明しながら繰り返し丁寧に指導を続けること。

不登校生徒に対する別室登校について

不登校生徒の状況

対象生徒は中学校 1 年生であり、6 月に行われた運動会練習をきっかけに体調不良を訴えるようになり、午後から登校することが増えた。様々なストレス要因により、体調不良や不安感を訴えることがあり、7 月から校内別室に登校するようになった。登校時には保護者が校門まで付き添っている。また、書字や四則演算に困難を抱えている。

具体的な取組

○体調管理と登校支援

通院し医師の助言を受けつつ、午前中に 50 分の別室登校ができることを目標に登校支援を進めた。毎日の登校時間を定め、登校時の保護者による付き添いや、下校時に支援員が通用口へ見送りをを行い、登校リズムの確立に努めた。

○自己有用感、自己肯定感の向上

校内別室を利用している他の生徒との関わりを意図的に設定し、自己有用感と自己肯定感を高めるように取り組んだ。



○個に応じた学習支援

学力不振による登校しづりを解消するため、個別指導による補充的な学習に取り組んだ。一人 1 台端末を活用し、漢字、英単語、計算など、課題に応じた基礎的な内容を学習することで自信がもてるようにして、登校意欲の安定を目指した。

○情報共有の徹底

できる限り多くの視点から対象生徒を支援するため、特別支援コーディネータが中心となり、担任や SC、別室指導支援員、不登校対応巡回教員との情報共有を徹底した。毎週、小まめなアセスメントを行い、当該生徒への有効な支援を進めた。

成果

登校に対する不安感の軽減を第一の目標に取り組んだ。コミュニケーション能力の育成と学習支援を取り入れたことで、学力向上への意識も育ち、毎日決まった時間に登校することができるようになった。登校に対する自信につなげることもできた。

課題

集団の活動に入っていけるように、他人と関わる力を育成する支援の充実が課題である。

スモールステップからの教室復帰

不登校児童の状況

対象児童は、小学校 3 年生の途中から教室にいることにストレスを感じ、欠席が多くなってきた。昨年度は、別室に母子でいることが多かった
保護者は当該児童の意思を尊重し、できる限り寄り添う意向を示していた。

具体的な取組

○校内別室の利用

教室にいることがつらい
ため、教室ではなく別室で
過ごすことを提案した。

学級とのつながりを確保
するため、校内別室による
オンライン授業を行った。

○できることから始める支援

スモールステップとして、朝の会までの教室への復
帰を提案して支援した。図工など好きな教科の教室復
帰を提案して支援した。

○担任及び管理職との情報交換

校内別室指導支援員が
一日の児童の様子を記録
し、担任との情報を共有
した。管理職とも児童の
記録を共有した。保護者
対応や児童への声かけな
ど組織的に取り組んだ。

児童の名前を記入（イニシャル表記）	児童が行ったことを記入する。
9:00	・学習した内容
10:00	・オンラインの様子
11:00	・別室にいるときの様子
12:00	・支援員が感じたこと
13:00	など
14:00	
15:00	
16:00	

児童の記録

○校内別室指導支援員による個別の指導及び声かけ

担任が準備した課題による個別指導を行った。当該児童の状況を確認しながら、教室復帰への声かけを行った。

成果

昨年度は、民生児童委員に見守りを依頼していた（週 3 日程度）。今年度、校内別室指導支援員が支援することにより、決まった人員が対応することで、当該児童にとって安心して通える環境になった。活動によって教室にいることをストレスに感じる児童にとっても、気持ちを静めたり、話を聞いてもらったりする場になっている。

課題

当該児童が校内別室に安心して通えていることを踏まえ、学級での授業参加につなげること。